

施策マネジメントシート1(21年度目標達成度評価)

作成日 平成 22 年 6 月 2 日
更新日 平成 22 年 7 月 23 日

総合計画体系	政策No.	2	政策名	緑豊かな環境と共生するまちづくり	施策統括課	農政課	施策統括課長名	可徳精至
	施策No.	9	施策名	みどりの景観の保全	関係課	環境衛生課、都市計画課、商工振興課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市内全域

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
みどりの景観を保全する

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

山林面積は土地台帳により把握。
市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率は意識調査にて把握。(①、②の合計比率)
設問:「あなたは、身近な里山(雑木林、竹林等)における景観が保たれていると思いますか?」選択肢:①保たれていると思う ②一部そうでないところもあるが概ね保たれていると思う③一部保たれているが概ね保たれてはいないと思う ④全く保たれていないと思う ⑤わからない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 市域面積	km ²
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 山林面積/市域面積	%
B 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率	%
C	
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
対象指標	A	km ²	見込み値					53.17	53.17	53.17	53.17
			実績値	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17	53.17		
	B		見込み値								
			実績値								
	C		見込み値								
			実績値								
成果指標	A	%	目標値				12.92	12.90	12.88	12.86	
			実績値	12.99	12.96	12.94	12.86	12.77	12.70		
	B	%	目標値				55.6	55.6	55.6	55.6	
			実績値	未把握	未把握	55.6	45.6	46.2	42.3		
	C		目標値								
			実績値								
	D		目標値								
			実績値								
	E		目標値								
			実績値								
	F		目標値								
			実績値								
事務事業数				本数			3	5	6	5	5
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円			0	0	0	0	0
			地方債	千円			0	0	0	0	0
			その他	千円			0	2,957	0	0	0
			繰入金	千円			0	0	0	0	0
			一般財源	千円			1,783	4,054	2,356	2,911	2,311
		事業費計 (A)	千円	0	0	1,783	7,011	2,356	2,911	2,311	
		(A)のうち指定経費	千円			0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			0	0	0	0	0	
	人件費	延べ業務時間	時間			218	168	133	194	105	
		人件費計 (B)	千円			873	673	533	776	418	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	2,656	7,684	2,889	3,687	2,729	
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)					毎年1haの地目変更(宅地化)があると考えて12.86%に設定した。毎年0.02%づつ山林面積は、減少する予想を立てている。 みどりの景観が保たれているとの支持率55.6%については、竹林等の整備を行い維持していけると考え、現状水準を確保する55.6%に設定した。						
基本計画期間における施策の方針					・土地利用基本計画に基づき里山を保全していく。						
全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携					・特になし						

施策マネジメントシート2(21年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・山林所有者による維持管理
 - ・住宅地の生垣の保全

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・土地利用計画に基づく保全
- ・竹林の整備補助
- ・市所有の公園を維持管理する。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)

- ・所有者の高齢化、不在地主が増える。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
- ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている。」「大きな河川がない。」との意見があった。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(21年度目標と実績との比較)

A → ×	【 山林面積/市域面積 】
	: 目標値12.88%に対し実績値は12.70%であった。
B → ×	【 市内のみどりの景観が保たれていると思う市民の比率 】
	: 目標値55.6%に対し実績値は42.3%であった。
C →	【 】
	:
D →	【 】
	:
E →	【 】
	:
F →	【 】
	:

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A・開発により山林面積が減少したことによる。
B・管理が行き届いていない(所有者・管理者の高齢化等により山林整備ができていない。手入れされていない。)ことに起因すると考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(ー5%程度) ×:目標を未達成

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・開発により山林面積が減少しつつあるが、開発地内にも緑地帯を残すなど景観の保全に努めている。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成21年度施策の成果向上につながる事務事業として、セミコンテクノパーク周辺緑地維持管理事業がある。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・里山の利用・活用方法を検討する必要がある。
- ・山林所有者の高齢化、不在地主への対応を徹底する必要がある。

施策マネジメントシート2(21年度目標達成度評価)

5 施策の21年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成22年 7月 13日)

- ・農村集落竹林整備事業等を活用し引き続き里山を保全していく。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成22年8月10日、18日、26日まとめ)

- ・景観モデル地区を作って重点的に取り組む必要がある。
- ・景観が保たれていると思う市民の比率が少ないので、その比率を高めるため、公園等の整備を進める必要がある。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成22年9月日)

- ・里山荒廃の状況が目立つ。竹林整備事業の補助基準の見直しを急ぐべき。
- ・市街域における緑地帯の保全については、ボランティア等による保全活動の可能な施策を確立。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成23年度合志市経営方針(平成22年10月25日)

1. 動物と共生を図る取組みを検討する
2. 水道水の継続的な水質の維持管理に努める。
3. 水道施設の計画的な更新を進める
4. 住宅地の道路側溝等の環境整備を推進する
5. 雑木林及び里山の保全対策を検討する

基本事業名	24 山林の整備	基本事業担当課	農政課
-------	----------	---------	-----

対象	市街化調整区域の山林	意図	良好に管理されている
----	------------	----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 管理がされている山林/調整区域の山林面積(割合)	%	目標値				1.41	1.61	1.82	2.02
		実績値	1.00	1.00	1.20	1.50	1.72	1.81	
(竹林整備)		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

目標値については、竹林の一部において、集落周辺の環境保全、筍の生産の為にのみ整備されると思われるので微増で推移し、22年度には2.02%になると設定した。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

身近な里山の風景・景観を保全するため、荒れた竹林を整備する農村集落竹林整備助成事業の実施により、H21年度は7,088㎡(5名)の整備ができた。今後は事業をより広く活用していただくため、周知方法を工夫し整備率の向上につなげる。

基本事業名	25 自然の保全	基本事業担当課	都市計画課
-------	----------	---------	-------

対象	市街化区域、市街化調整区域内の山林	意図	保全区域として保全されている
----	-------------------	----	----------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 自然公園面積	ha	目標値				19.3	19.3	19.3	19.3
		実績値			16.6	19.3	19.3	19.3	
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

平成19年度に蛇ノ尾公園が供用開始し、19.3haとなり、22年度までは、新設の自然公園の計画はないので22年度を19.3haと設定した。

9. 基本事業の21年度の振り返り(目標達成度評価)と23年度に向けての課題

自然公園の整備計画はないので、前年度同様の数値となっている。